

No. 936

1971にっぽん

主演 佐 藤 栄 作

浜の真砂はつきるとも世にゴシップのたねはつきなし。情報、情報、情報また情報。スクープ、特報、極に独占、情報過多に目がまわる。ところで今年の情報をにぎわせた主役は誰か、なんといってもこの人でした。

「佐藤栄作」

ああ、本当にこの人の顔は今年も舞台の中央でからぐことはありませんでした。栄ちゃんを詠嘆する国民の声を少しは聞いて下さるまいか。

カンバラナクチャ……カンバラナクチャ…がんばらなくちゃと今年も国民はせっせと働いた。しかし、ドルの価値が下るにつれて日本のひずみが露呈、巷に不況の嵐が吹きよくる。栄ちゃんなんとかしてくれまいか。

パンザイ——パンザイ——パンザイ——

政治に新風を送るかと期待された參議院選挙。あいかわらずのタレント候補の奮戦、1位から3位まで独占した。わおざりの50位もタレントさん。世の中何かが違ってないか。栄ちゃん笑いことではございません。

殺人鬼、大久保清、僅か2カ月間に100人余りの女性を誘惑、8人を殺害。第2の小平事件と日本中がふるえた。乱れた風俗が生みだした奇型児なのか、それとも世の中どこかが狂っているのか。栄ちゃん線香の煙が目にしますか。

過密日本の空、巨大にふくらんだ日本の防衛、自衛隊機が我がもの顔に空を飛ぶ。ついに旅客機をつきおとし、世界最大、160人の死者を出した。乗客の大半は遺族会の人々であったこの皮肉なめぐりあわせ。大臣の首をすげかえて佐藤総理は居坐った。栄ちゃん御存知ないとおっしゃるか。

千葉駅成田市三里塚。第一次、第二次とあいつぐ強制執行は、力をもって農民の声を圧殺しようとした。話しあいの機会のないまま、力と力は激しくぶつかりあい、警官に3人の死者を出した。しかし、国力の前には農民の抵抗は空しく、あいついで農民の皆はくずれおちた。政治の力はいとも簡単に一人の農民の生活をくつがえす。そうまでして飛行機をとはす理由はどこにあるのか。

政治は公害の前には全く無力だった。日本の国土は死の街と化し、そこに生きる人々は自らをとりまく環境におののいた。國民のかさなる不満は、全国津々浦々からおしませ、連日国会をとりまく。その数は兄岸信介への不信を上回った。支持率23%、史上最低。國民のゆきぶりに動する様子のない總理大臣。栄ちゃんあなたは強かった。

年の終りの日本海、黒船が危険をはらんでどっかと居坐った。海のむこうでは米中は国連に加盟した。黒い潮が日本を襲ふ。暗黒日本の夜明けはいつくるのか。栄ちゃんいつまでアメリカを信じるつもりなのか。

1971年日本の主役、佐藤栄作。そろそろ幕と行きたいものです。

カチ——カチ——カチ——